

研究分野		授業科目名				科目責任者	
形態系分野		腫瘍病態治療学特論Ⅰ・Ⅲ				(永坂 岳司)	
開講年次		共通/専攻/選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
腫瘍免疫を軸にした新規診断・治療を開発するため、 (1) がん局所の病態を腫瘍細胞と宿主細胞の双方向性応答から理解する。 (2) 担癌病期に伴う全身的な免疫病態を理解する。							
授業到達目標							
(1) がん組織あるいはがん性胸・腹水局所細胞・上清について分子免疫学的に解析できる。 (2) 患者末梢血リンパ球および血清について分子免疫学的に解析できる。 (3) 解析結果に基づきがん局所微小環境を考察できる。 (4) がん局所および全身的免疫病態の理解に基づく新規治療を開発できる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	第1週	水	17:00-18:00	岡脇 誠	講義	[抄読会]	がん病態と腫瘍免疫について臨床論文の抄読会と解説講義を行う。 [場所:本館棟6階臨床腫瘍学実験室]
2	第2週	水	17:00-18:00	永坂 岳司	講義	[抄読会]	家族性腫瘍とゲノム医療について臨床論文の抄読会と解説講義を行う。 [場所:本館棟6階臨床腫瘍学実験室]
3	第3週	水	17:00-18:00	永坂 岳司	講義	[抄読会]	分子標的とがん治療について臨床論文の抄読会と解説講義を行う。 [場所:本館棟6階臨床腫瘍学実験室]
4	第4週	水	17:00-18:00	岡脇 誠	講義	[抄読会]	がん病態と緩和ケアについて臨床論文の抄読会と解説講義を行う。 [場所:本館棟6階臨床腫瘍学実験室]
評価方法							
【特論Ⅰ】 (1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 【特論Ⅲ】 (1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。33頁：単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
講義の際の討論をもってフィードバックとする。							
教科書							
指定しない。下記、参考書を参考にして下さい。							
参考書							
ISBN-9784524237883, 新臨床腫瘍学-がん薬物療法専門医のために、日本臨床腫瘍学会編集, 南江堂, 2018 ISBN-9784431550303, Immunotherapy of Cancer, 山口 佳之, Springer, 2016							
準備学習(予習・復習等)							
(1) 参考書は3年次までに通読する。 (2) 関連研究論文を詳読する。 (3) 毎回の講義後も提示論文や症例を復習すること。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
課題を探究し、仮説立脚、検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉することが修了認定・学位授与の必要要件であり、本特論はその能力を向上させる。							
注意事項・メッセージ							
(1) 評価方法に従って進める。 (2) 解析データ、解釈、学会発表をもって評価する。 (3) がんを免疫で治すことを目標に、ともに研鑽しよう。							